福岡大学病院

FUKUOKA UNIVERSITY HOSPITAL

あたたかい医療



福岡大学病院の基本理念

あたたかい医療

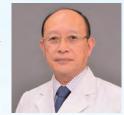
社会のニーズに応える患者中心の医療の提供 高度先進医療の指導的病院 地域に開かれた中核的医療センター 社会に必要とされる優れた医療人の育成 健康のための情報発信基地

福岡大学病院綱領

- 1. 患者の権利と尊厳を尊重し、高い倫理観、使命感を備え優しい心を持った医療人による誠実で責任ある医療を提供します。
- 2. 高度先進医療を提供する大学病院として最新の医療技術を導入し、 個々の患者に応じた最善の医療を提供します。
- 3.全人的医療を目指して全職種が協働し、 患者を中心とした満足度の高い診療に取り組みます。
- 4. 地域住民との絆、地域医療機関との連携を大切にし、 医療・健康に関する情報の発信を通して医療水準の向上に努めます。
- 5. 臨床研究·高度技術の開発など、大学病院として先端的研究に取り組み、 世界の医療や医学の発展に貢献する人材の育成を図ります。

病院長あいさつ





初めに

福岡大学病院長に就任し2年以上が経過しました。 今回再任を得ましたので引き続きその責務を果たした いと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。現在多く の病院は、新型コロナウイルス感染症の繰り返す余波に より出口が見えない閉塞感や疲労感が重なる非日常が 続いています。また大学病院を取り巻く環境も、人口構 造の変化や医師の働き方改革などへの対応が急がれて いますし、本年春からの診療報酬改定の行方も気にかか るところです。しかしながら特定機能病院である当院は、 どのような状況でも常に安全で高度な医療の提供と医 療人育成に積極的に取り組む必要があります。福岡大学 病院は、他の福岡大学筑紫病院、福岡大学西新病院と 連携を一層強固にして、これらをけん引する役割も担っ ております。本年も様々な課題を関係の皆様と協力しな がら克服してまいりたいと考えています。以下に当院の 状況とこれからの展望を述べたいと思います。

診療について

長引く新型コロナウイルス感染症で、私たちは、当初から多くの経験をし、そして学びました。ワクチン3回目の接種や対象年齢層の拡大、隔離期間の見直し、抗ウイルス薬の承認などにより現実路線の「コロナゼロから社会生活重視」にシフトが進むことでしょう。

今後は、中期・長期のしつかりとしたビジョンを立てて、 それに向かった組織改革を進めてまいります。

[進む新本館建設] 令和3年10月より長年の念願であった新本館建設に着工しました。令和5年末に完成を予定していますが、現在ここに装備する大型医療機器の選定作業に入っております。したがって建物や機器などハード面が刷新されますが、実際に運用する人材が重要になります。これをきっかけに効率的な稼働、運用手順、患者サービス向上など更に精度を上げていく必要があります。また今年中に医療画像管理システム(PACS)を更新し、さらに次期の電子カルテシステムの選定作業も進

めています。これらDX(デジタルトランスフォーメーション)活用など時代に即した対応により皆さんに快適な医療環境を生み出す予定です。

[診療と使命] さて令和4年の診療報酬改定には、基本的視点と方向性が示されました。引き続き新型コロナウイルス感染症での質の高い医療提供体制、安心・安全の医療実現での医師等の働き方改革推進、効率化・適正化の向上などがあります。具体的には救急医療の充実やオンライン診療の促進、多職種が関与する質の高い医療と、これを担う医師、看護師の負担軽減などについての記載も示されています。これらをよく理解しながら当院の使命(あたたかい医療提供)を果たすことが大切だと考えています。

[最近の取り組み] 入退院支援センターを拡充することで、患者さんに快適な環境と無駄のない検査や治療計画を提示できるようになりました。また令和3年にハイブリッド手術室を開室し血管内低侵襲治療を稼働させましたが、近日中には補助循環用ポンプカテーテル(IMPELLA)での重症心疾患の治療が始まります。

[育てる] 私たち大学病院において両輪の役割の一つに、 医療人育成があります。コロナ禍でも初期研修医の福 岡大学病院を希望するマッチング率は高くなっています。 令和5年度に向けて魅力ある実習プログラム作成も進 んでいます。また院内職員や様々な職種の有意義な学習 の機会が得られるような取り組みを続けます。もう一つ の大学病院の役割として新しい診断・治療方法の開発や 科学性、有効性について検証する研究的役割があり、医 学部との緊密な連携が欠かせません。

私たちは、選ばれる病院として4つの「しんか」が必要であると思います。まず患者との信頼関係をさらに深める深化、成長領域をさらにのばす伸化、新たな分野への挑戦である新化、結果として福大病院の価値や能力を生み出す真価が問われているのではないでしょうか。

今後も質の高い医療を提供すべく努めてまいります。 ご理解、ご支援を宜しくお願い申し上げます。



診療受付時間

平 日

初診

8時30分~12時00分

再診

8時30分~15時00分

休診日: 土曜日·日曜日·祝日·振替休日 8月15日·12月29日~1月3日

PICKUP

案内·受診相談

新館1階初再診受付横に、案内·受診相談窓口を設けています。

「診察を受けたいけど、何科にかかったらいいかわからない」という時、看護師を中心に受診科の相談に応じています。また、院内の施設や場所の説明など何でもお気軽にご相談ください。

専門的知識・技術を有する看護師が、患者さん、ご家族 ヘケアや相談などに対する看護師主体の相談窓口を開 設しています。(物忘れ相談、こどもとご家族の相談など)



診療科・センター 一覧

- がんセンター(腫瘍・血液・感染症内科)
- 内分泌・糖尿病センター(内分泌・糖尿病内科)
- ハートセンター(循環器内科、心臓血管外科)
- 消化器センター(消化器内科、消化器外科)
- 腎・泌尿器・膠原病センター(腎臓・膠原病内科、腎泌尿器外科)
- 呼吸器センター(呼吸器内科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科)
- 脳神経センター(脳神経内科)
- ●精神神経科
- 小児医療センター(小児科、小児外科)
- 運動器・脊椎・脊髄センター(整形外科)
- 皮膚科・形成外科・美容医療センター (形成外科・美容外科、皮膚科・美容皮膚科)
- 脳卒中・脳脊髄腫瘍センター(脳神経外科)
- 女性診療センター

(産婦人科、呼吸器·乳腺内分泌·小児外科、形成外科)

- アイセンター(眼科)
- もの忘れ外来専門センター(脳神経内科、精神神経科)
- 耳鼻咽喉科
- 放射線科
- 麻酔科
- ●歯科口腔外科
- リハビリテーション部
- 総合診療部
- 予防・抗加齢・再生医療センター
- 心臓リハビリテーションセンター(循環器内科、心臓血管外科)
- 摂食嚥下センター(歯科口腔外科、耳鼻咽喉科)
- 最先端ロボット手術センター (呼吸器・乳腺内分泌・小児外科、消化器外科、腎泌尿器外科、 産婦人科)
- 炎症性腸疾患先進医療センター(消化器内科)
- ●遺伝医療室
- 臓器移植医療センター(呼吸器・乳腺内分泌・小児外科、 腎泌尿器外科、腎臓・膠原病内科、眼科)



病室

当院は、救命救急センターを含む20の入院病棟を有 しており、病状や治療に合わせ、専門性の高い医療が提 供できる療養環境を整えています。患者さんにとっては 病棟・病床が生活の場となりますので、早期回復に向け 患者さん個々に応じた療養生活を病棟看護職員が支え ます。また、特別療養環境室(有料個室)として、病室の広 さや備品により、各種病室が選択できますので、医師・看 護師にご相談ください。

[一般室]



[個室]



PICKUP

てぶらで入院セット 有料

入院の際、身の回りのものをまとめて提供する「てぶ らで入院セット(有料) | をご用意しています。衣類や消耗 品の準備、タオルの洗濯等が不要になりますので是非ご 利用ください。

・病衣

・ストロー

・バスタオル

・ストローコップ

など

・フェイスタオル

歯磨きセット

お食事セット

・ティッシュ

(箸・スプーン・フォーク) ・イヤホン

PICKUP

糸島あじわいメニュー

福岡西部に位置し、美しい海と山に囲まれて自然豊 かで食材が豊富な糸島。新鮮な野菜や大豆製品、黒毛 和牛、玄海ポークなどの糸島産の食材を中心に使用し、 有田焼の器に盛り付けた食事を提供しています。クオリ ティーの高い食材を使った地産地消の病院食です。入院 生活を少しでも快適に過ごしていただけたらと思います。

※入院時食事療養費 以外に1日880円 (税込)の自己負担 が必要です。



救急医療

24時間365日私たちは、救急患者さんの治療に全力を尽くします。



「一次救急」は

入院する必要のない軽症の急病患者、

「二次救急」は

入院や手術を必要とする患者、

「三次救急」は

生命に危険が及ぶような 緊急性の高い 重症患者に対応するものです。

当院では、

- 二次救急を救急外来(ER)が、
- 三次救急を救命救急センターが 担っています。

PICKUP

救急医療 ECMO センター開設

当院では2020年7月に救命救急センターに併設した"ECMOセン ター"を立ち上げました。ECMO治療は新型コロナ肺炎などが重症化 し、人工呼吸器だけでは管理できない重篤な呼吸不全に対しておこ なう呼吸管理の"最後の砦"です。ECMOセンターのスタッフは海外 研修などでこれまでに蓄積してきた知識と経験を活かし、積極的に地 域の重症呼吸不全患者を受け入れています。2021年6月には九州初 のECMO専用のドクターカー(ECMO Car)を導入し、県内はもとよ り隣接県の重症患者も当院まで安全に搬送できるようになりました。 これからも、より一層重症呼吸不全患者の救命を目指していきます。



医療・介護・教育研究財団より第15回ふくおか「医療活動功労賞」を授与されました。

PICKUP

救命救急センター

当院の救命救急センターは、人口250万人を抱える福岡都市圏のうち、福岡市南西部と糸島市を中心に、「三次救急」 医療を担っています。 病床数は34床を有し、年間約1,000名の最重症患者を受け入れており、救急医療の最後の砦として頑張っています。 2020年7月には重症呼吸不全患者の治療に特化した「ECMOセンター」を併設しました。 1人でも多くの助かる命を助けるため、スタッフー丸となって最高水準の医療の提供を目指します。



PICKUP

救急外来(ER)

救急外来(ER)は、「二次救急」の患者さん受け入れのため2014年4月に正式に設立されました。現在、総合診療部を中心として、循環器内科、消化器外科など多くの診療科がERを支えています。



PICKUP

を行いました。

災害医療(DMAT) Disaster Medical Asistance Team

DMATとは大規模震災や多数傷病者が発生した事故などの際に、直ちに現場へ駆けつけ、救急医療を行う『災害派遣医療チーム』です。DMATは災害医療の専門的訓練を受けた医師、看護師、業務調整員で構成された、災害医療のスペシャリストです。当院のDMATは東日本大震災をはじめ、2016年4月の熊本地震、九州北部豪雨(2017年7月)、令和2年7月豪雨(人告)(2020年7月)に出動し医療活動等



PICKUP

ドクターカー

消防本部からの要請で、医師や看護師などの救急スタッフが病院から救急現場に向かうための緊急車両(ドクターカー)をFMRC(通称:エフマーク)と呼びます。車内には薬剤や緊急処置のための機材を搭載しており、傷病者に接触した直後から救急処置を開始することができます。重症な患者にできる限り早く治療を開始することで救命率の向上や後遺症の軽減を目指します。当院では病院で患者を待つのではなく、医師が直接救急現場へ出動する『攻めの救急医療』を実践します。



2

地域医療連携センター

患者さんがより適切な医療を受けられる体制を整備することを第一に、 地域やその他の医療機関との医療連携の円滑化を目指します。



「かかりつけ医制度」を推進しています

当院は、高度で専門的な医療を担う特定機能病院として、他の医療機関からご紹介いただいた患者さんを中心に診療を行っています。地域の「かかりつけ医」と連携を取り、患者さんの症状に応じた適切な医療を提供いたします。

● 症状が安定すると、他の病院・医院をご紹介します

症状が安定した患者さんやお薬のみで通院されている 患者さんについては、「かかりつけ医」またはお近くの医療 機関へ転院し、治療を継続していただくことになっています。 病院の機能分担に、ご理解とご協力をお願いいたします。

PICKUP

外来事前診療予約

当院の1日平均外来患者数は、1,200名を超えます。 また、外来担当医、特に専門医による診療は毎日ではありません。予約なしでご来院いただくと、診療までに長い時間お待ちいただいたり、担当医が不在の場合は、患者さんのご希望に添えず受診できない場合があります。

当院での受診をご希望の場合は、【かかりつけ医】等 にご相談いただき、医療機関から事前に診療のご予約 をしていただくことをお勧めしています。

PICKUP

「かかりつけ医」 紹介コーナー

当院では、「普段の通院治療、当院での 治療後の経過確認、急な身体の変調時 の初期治療に対応していただける地域の 【かかりつけ医】」をご紹介しています。

地域で開業されているクリニックの リーフレットを作成し、新館1階の【紹介 コーナー】に設置しています。【かかりつ け医】をお探しの方はご利用ください。



PICKUP

入退院支援

患者さんが外来診療から入院、そして退院または 転院されるまでの流れがスムーズになるよう、入退 院支援を行う看護師・ソーシャルワーカーを配置し、 各外来および病棟スタッフが協働して患者さんをサ ポートします。

また、当院を退院・転院される患者さんが、地域の医療施設や自宅等で安心して暮らしていけるよう、専門的立場からサポートいたします。

PICKUP

医療相談窓口

病気や怪我に伴って生じる療養面や社会生活面の問題や不安に対して、ソーシャルワーカーが専門的な視点からご相談に応じたり、問題解決できるよう一緒に考えサポートいたします。

患者さんご本人はもとより、ご家族からのご相談 もお受けいたしますので、悩みや不安があればご相 談ください。



PICKUP

治療と仕事の両立支援 相談窓口

病気を抱えた患者さんが適切な治療を受けながら働き続けることをサポートする相談窓口です。

ソーシャルワーカーや看護師が、治療と就労生活の両立が実現できるように共に考えます。

また、月に2回、福岡産業保健総合支援センターから派遣された、両立支援促進員(社会保険労務士など)による出張相談窓口も設けています。

PICKUP

医療セミナー

対象者: 医療関係者

- 福岡大学病院メディカルセミナー
- 糸島医師会·福大病院 地域連携学術講演会

医療連携の取り組みの一つとして、各 診療科の特色や教育・研究活動の紹介を 通じて、地域の医療関係者との協力関係 の充実を図っていくことを目的に医療セ ミナーを開催しています。



がんセンター



福岡大学病院は、がん診療連携拠点病院として専門的ながん医療を提供するととも に、地域の医療機関と連携して患者さんの治療や生活のサポートを包括的・継続的に 行っています。がんセンターは診療科や職種の枠を超えて構成され、福岡大学病院で がん治療を円滑かつ効率的に行うことを目的に活動しています。

PICKUP

外来化学療法センター

抗がん薬に加えて、がん細胞がもつ特徴を選択的に攻撃する 分子標的薬、自分の免疫力でがんを攻撃する免疫チェックポイ ント阻害薬など新規の治療薬が開発され、がんに対する薬物療 法は進歩しています。治療には必ず副作用がありますが、いつ頃 どのような副作用が起こるかを予測して予防もしくは早期発見・ 早期治療に努めることで、安全に有効な治療を実施できるよう 専門の医師、看護師、薬剤師が協力して治療に臨んでいます。



PICKUP

緩和ケア



緩和ケアとは、病気の進み具合とは関係なく、 からだや心のつらい症状を和らげ、患者さんとご 家族がより豊かな時間を過ごせるようにするた めの医療です。症状緩和チームでは、様々な専門 分野のスタッフ(医師、看護師、薬剤師、栄養士な ど)が集まり、主治医と一緒にご自身らしく生きる ためのお手伝いをしています。

PICKUP

放射線治療

外照射機器はリニアック2台、内照射機器はコバルト照射装 置を備えています。外照射は通常放射線治療から強度変調放射 線治療、定位放射線治療を実施し、内照射は主に婦人科がんに 併用しています。年間治療総患者数は約500例です。2021年1 月に強度変調回転放射線治療(VMAT)が可能な新治療機器(ハ ルシオン)を導入。治療時間の短縮が可能で、より高品質な治療 を提供できるようになりました。セカンドオピニオン目的の放射 線治療相談外来を併設し粒子線治療等の適応についても相談 を受けています。



治療室

PICKUP

がん相談・支援

がん患者さんやご家族の気がかりを少しでも 解決できるよう、がん専門相談員がご相談をお受 けしています。相談内容は、「告知や副作用」「副 作用と普段の生活との両立や工夫」「退院後の療 養場所」など多岐に渡りますが、診断前でも、治 療が始まってからでも時期を問わず、対応してい ます。当院にかかりつけでない患者さんや一般の 方への対応も行っています。



がん地域医療支援

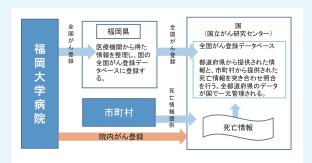
「大切にしたい、いつもの生活」をスローガンに、がんになっても今までと可能な限り変わらない生活ができるようにがん患者さんを支えていきたいと考えています。そのひとつとして、「がん地域連携パス」を活用してかかりつけ医とともに安心で質の高い医療を目指しています。「治す医療」から「治して支える医療」へ、たくさんの笑顔とお会いしたいです。



PICKUP

院内がん登録

院内がん登録とは、「がん」の診断・治療を受けたすべての患者さんについて、がん情報・治療情報・予後情報を収集し登録する仕組みです。これらの情報は、当院におけるがん診療の実態把握や質の向上、がん患者さんへの適切な医療の提供に役立てています。また、国に情報提供することにより、国のがん対策等にも広く利用されています。



PICKUP

がんリハビリテーション

がんセンターにがんリハビリテーション部門が新たに創設されました。 がん治療において、体力の低下は日常生活動作(ADL)へ影響するだけで なく、治療の選択肢を狭め、治療成績に影響を及ぼします。当部門では 体力低下予防の訓練だけでなく、体力やADLの評価を行い、治療や地域 連携に役立つように活動しています。

PICKUP

がんゲノム

当院は九州大学病院の「がんゲノム医療連携病院」として、がんゲノム 医療を提供しています。がんゲノム医療とは、主にがんの組織を用いて多 数の遺伝子を同時に調べることで(遺伝子パネル検査)、遺伝子変異を明 らかにし、個々のがんの特徴に応じた治療を行う医療です。

PICKUP

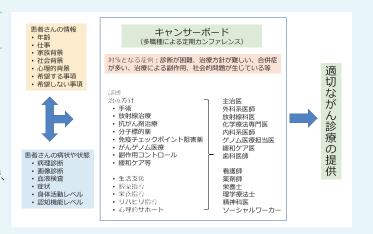
がん手術支援部門

がん治療において手術治療は大きな役割を担っています。2021年1月、福岡大学がんセンターの設立に伴い「がん手術支援部門」が設けられました。福大病院では通常のがん手術のみならず、ロボット支援手術・ハイブリッド手術・ナビゲーション手術などの高度ながん手術を行っています。本部門では、このような手術治療の情報共有や患者さんへのがん手術の啓蒙活動などを行っています。福大病院では多くの患者さんに安心して最善のがんの手術を受けて頂くために、日々努力して参ります。

PICKUP

キャンサーボード運営部門

がん患者さんの中には病状が複雑で、一つの診療科では解決できないことがあります。また、病気だけでなく、家庭の事情や経済的なことなど社会的問題もあります。がん診療では、さまざまな医療専門職の人が、診断から治療、療養生活、緩和ケアに至るまで、チームで支援していくことが重要です。福岡大学病院のキャンサーボードでは、多職種によるスタッフ間で情報の共有を行うことで、多くの視点から患者さんの問題をトータルで検討することで、安心して治療に臨めるようサポートしています。





4

最新医療機器

最新型のロボット支援システム「ダビンチXi」などの 最新医療機器を備えています。





PICKUP

ハイブリッド手術室

2020年11月にハイブリッド手術室を開室し、血管撮影装置 「Discovery IGS730」を導入しました。国内でも数少ない最新の自 走式透視装置です。

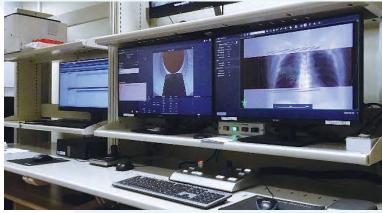
ハイブリッド手術室とは、手術台と血管 X 線撮影装置を組み合わせた手術室のことで、外科手術による治療とカテーテルによる低侵襲な血管内治療を、手術室と同等の空気清浄度を保ちながら同一の室内で行うことが可能となります。これにより、手術時間の短縮や出血量の減少、さらには造影剤量や被ばく線量の低減など、患者さんの負担軽減につながります。

現在このハイブリッド手術室で、Transcatheter Aortic Valve Replacement (TAVR)の施設認定を受け、循環器内科医、心臓血管外科医、麻酔科医、そして放射線技師、臨床工学技士、看護師など多職種で「ハートチーム」を構成し、実施しています。また、ステントグラフト手術、これまで切除が困難であった微小肺がんに対し近距離無線通信を用いたRFID、マイクロチップを利用した早期肺がん低侵襲手術、脳血管バイパス手術や脊椎外科手術などの先端治療が行われています。今後更に様々な先端医療の提供が可能になる予定です。

PICKUP

Varian S Pares

Varian 社製リニアック装置 [Halcyon]



放射線治療操作室

高精度放射線治療装置 Halcyon(ハルシオン)

2021年1月、バリアン社の最新放射線治療装 置 Halcyon(ハルシオン)が導入されました。こ の装置は、2019年3月に日本で第1号機が導入 されて以来、国内で7機目となり、IMRT(強度変 調放射線治療)に特化した高精度放射線治療装 置です。IMRTでは、腫瘍の形に合わせて放射線 を集中し、周囲の正常組織への照射線量を低減 することが可能です。この装置は、治療計画から 照射までが効率的にシステム化されており、これ までIMRTの対象とならなかった腫瘍に対して も適用していく予定です。また、IGRT(画像誘導 放射線治療)を行うことにより再現性の高い正確 な放射線治療が提供でき、高速なガントリ回転に より治療時間を大幅に短縮可能です。外観はス マートなデザインで圧迫感が少なく、100cmの 広い開口径ガントリや静かな動作音で患者様の ストレスを軽減できます。この最新放射線治療装 置の導入により、今まで以上に安全で安心できる 高品質な放射線治療を提供してまいります。

PICKUP

da Vinci Xi: ダビンチ Xi

かの有名な芸術家の名を冠したダビンチXiは 最新式の手術支援ロボット機器です。da Vinci Surgical System (Standard)が1999年に完成 して以来、各国に広まったロボット支援機器。日 本では2012年に前立腺がんに対する保険適応 となったのをきっかけに多くの施設に導入され ました。

ロボット手術はこれまで行われてきた腹腔鏡手術の低侵襲性(身体への負担が少ない)に加え、正確で微細な手術が可能となったことに大きな利点があります。福岡大学病院では2015年7月より第4世代となるダビンチXiを導入し、前立腺がんに対するロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術を開始しました。2016年には、腎細胞がんに対する腎部分切除を導入し、さらに2020年には、腎盂尿管移行部通過障害に対する腎盂形成術を導入し、安全確実な手術を行っています。

世界的には婦人科疾患や消化器・呼吸器疾患に対する手術も多数施行されており、わが国においても2018年4月より保険適応となっています。



ダビンチ Xi



サージョンコンソール: 奥のモニターを見ながら、 術者は手術を行います。



患者さん側: 経験豊富な医師がダビンチ手術 をサポートしています。

5

臓器移植医療センター



命のリレー;臓器・組織移植により、患者さんの命をつなぎます。



臓器移植とは、重い病気で特定の臓器の機能が低下し、生命の危機に陥った患者さんに行われる治療です。病気になった臓器を交換することによって病気を治し、命を救う治療ですが、移植用の臓器があって初めて可能な治療です。移植用臓器は、不幸にして脳死になられた篤志の方(脳死ドナー)や愛情に基づいて臓器提供を望まれる身内の方(生体ドナー)から提供されます。「別の誰かに命をつなぐ」という意味で、「命のリレー」と呼ばれています。現在の日本では心臓・肺・肝臓・腎臓などの移植が可能ですが、福岡大学病院では「脳死・生体肺移植」と「献腎・生体腎移植」が行われています。

また移植医療の中には角膜移植のような「組織移植」という形の移植もあります。角膜移植は、患者さんの視力を回復することで生活の質(QOL)向上に役立てられます。福岡大学病院では、組織移植として「角膜移植」、「膵島移植(再生医療センター)」が行われています。



脳死肺搬送時のチャーター航空機機内

PICKUP

脳死 生体肺移植

肺移植は、肺線維症や肺気腫などの重い肺の病気で重症の呼吸不全になられた患者さんに実施されます。移植がうまくいくと患者さんは命を救われるだけでなく、肺機能を飛躍的に高めることができます。患者さんは大変元気になり、一度はあきらめた学校や職場への復帰が可能になることもあります。

日本国内には現在10か所の肺移植施設があり、福岡大学病院はその一つとして九州全域の脳死・生体肺移植を担っています。九州一円の30-40名の肺移植待機患者さんが、肺移植のその日をそれぞれの居住地でお待ちになっています。肺移植チームの医師は、肺を提供くださる脳死ドナーが現れたら日本中どこへでも直ちに出向いてドナー肺を福岡へ持ち帰り、移植手術を実施します。緊急を要する仕事ですので、移植肺の運搬にはチャーター機が使用されることもあります。

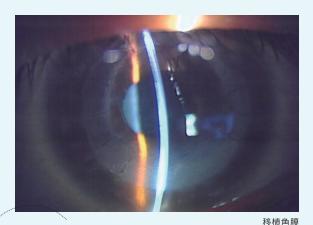


PICKUP 腎移植チーム

献腎·生体腎移植

進行性の慢性腎臓病のため腎機能を失ってしまった患者さんは血液透析、腹膜透析、腎移植のいずれかの腎代替療法を受けなくてはなりません。3つの治療法のうち最も通常に近い生活を送ることができるのが腎移植です。腎移植には脳死あるいは心停止ドナーから腎臓の提供を受ける献腎移植と、親族から提供をうける生体腎移植があります。慢性透析患者さんが全国に約34万人、献腎移植希望登録者が約1万4千人いるのに対し、献腎提供は年間200腎程度に留まるため、わが国の腎移植の大半は生体腎移植として行われています。

福岡大学病院では腎移植希望者の術前検査、手術直後、および中長期の管理において、腎泌尿器外科と腎臓・膠原病内科が緊密に連携し、安全・確実な移植の実施を心掛けています。



PICKUP

角膜移植

いろいろな病気により角膜に混濁などが生じてしまうと光を眼の中に通すことができなくなってしまい、視力の低下につながります。角膜移植は障害を受けてしまった角膜を透明な角膜に取り換えることにより視力の改善を目指す手術になります。当院における角膜移植は多数の症例で輸入角膜を使用しています。そのため、角膜移植を予定手術として行うことができています。なるべく3か月以内に行えるようにしています。また、当院の特徴として、内科的治療では病状が軽快しない難治性角膜感染症に対する深部層状角膜移植を行っております。現在、アカントアメーバ角膜炎に対するパーツ移植の成績は大変良好の結果が得られています。

PICKUP

臓器提供

最近はLast Will(最後の意志)として万一の時に備え 臓器提供の意志を事前に示す人が増えています。しかし、 未だに臓器提供数が十分ではないため、移植を待ちながら亡くなる方が数多くおられます。 臓器移植ネットワークは、臓器提供啓発のため毎年10月に「Green Light-up Project」として全国のランドマーク施設を移植のシンボルカラーである「グリーン」にライトアップします。 福岡大学病院も、臓器移植医療の広がりを願ってこの時期に病院を美しいグリーンにライトアップします。 10月には、秋の夜空に美しく光る福岡大学病院をご覧ください。



Green Light-up Project でライトアップされた福岡大学病院

6

入退院支援センター 周術期管理センター

入院予定時より周術期管理を含め、 入院・退院に関する適切な支援を行います。

当センターは、入院予定の方を対象に、入院中および退院後に安心して療養生活を送ることができるよう多職種で支援をする部門です。「手術後、トイレに行きたくなったらどうすればいいの?」「入院のイメージがつかなくて不安」、「入院費が払えるか心配」、「仕事との両立ができるかしら?」など入院に際し、様々な気がかりに対して、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、ソーシャルワーカー、事務等の多職種で対応します。2021年10月には、全身麻酔の手術を受ける方だけではなく、入院される方すべてを対象として支援をするために、周術期管理センターと業務を統合し、本館1階に「入退院支援センター・周術期管理センター」として拡充いたしました。外来から入院、退院後までを見据え、入院生活や退院後の療養などにおける不安や気がかりを入院前から共有させていただき、院内だけではなく、地域の行政や社会福祉機関とも連携をとり、病気に向き合う患者さん、ご家族を支援しています。外来で入院が決まりましたら、お気軽にご相談ください。



PICKUP

麻酔科医師

患者さんが麻酔の安全性、必要性、危険性などについてしっかりと理解した上で安心して手術、麻酔に臨んでいただけるように、麻酔の説明をします。

PICKUP

歯科医師

歯科医師は手術日を含めた手術前後の口腔ケアを中心とした周術期口腔機能管理を行っています。

PICKUP

歯科衛生士

歯科衛生士は、入院手術を予定された患者さんの口腔内観察を外来の段階で行い、口腔衛生状態や感染源となる歯周疾患の有無、全身麻酔時の保護が必要な動揺歯等のチェックを行います。

PICKUP

薬剤師

お薬手帳を確認し、治療や検査に影響のある薬等(休薬推奨薬)はないか、地域の薬局とも連携し、薬剤管理を行います。

PICKUP

管理栄養士

栄養状態の評価、食物アレルギーや適性食種の確認 を行います。

PICKUP

看護師

入院に必要な情報の聴取、入院に対する思いや気が かりの確認、入院生活や治療過程の概要等の説明を行 います。

PICKUP

メディカルソーシャルワーカー

仕事と病気の両立に関することや経済的なこと、退院 後の社会福祉制度利用や自宅療養に関する相談等をお 受けしています。円滑な療養生活支援のために、入院前 からケアマネージャーや地域包括支援センター等の保 健福祉機関とも連携を行います。

7 感染制御部







質の高い院内感染対策や 感染症診療支援により、 安全・安心な医療の提供を サポートします。

感染制御部は、感染症対策を専門とする医師、看護師、薬剤師、臨床 検査技師などの多職種でチームを構成し、院内感染対策や薬剤耐性菌 対策などの感染症診療支援を行っています。新型コロナウイルス感染症 の流行を契機に、院内感染対策の重要性が再認識されています。感染 制御部は、新興感染症が発生した場合に、感染症の患者さんを当院に 安全に受け入れることができるような体制の構築において、主導的な 役割を担っています。患者さんと医療従事者を感染から守るために、感 染症に「かからない、うつさない、ひろげない」を合言葉として、手指衛 生や個人防護具の着脱、環境清掃、清潔・汚染区域のゾーニングなど基 本的な感染対策の教育を行っています。感染症は病院の垣根を越えて 伝播しますので、地域の医療機関とネットワークを構築し、地域全体で の感染対策も行っています。

福岡大学病院 TOPIX

DIVISION OF MEDICAL SAFETY MANAGEMENT

8 医療安全管理部

患者さんに安全で質の高い医療を 提供できるよう、

医療環境および医療システムの 改善に向けて日々取り組んでいます。

特定機能病院でもある当院は、地域の先進的医療を担う病院として、より高度で良質な医療の提供を目指しています。しかし、医療の高度化・複雑化、患者さんの高齢化に伴い、医療の提供には様々なリスクが生じているのも事実です。

医療安全管理部は、少しでもこのリスクを軽減し、患者さんの安全を確保するために、日々医療環境の改善、職員教育に取り組んでいます。同時に、当院で提供する治療や看護ケアに対する患者さんの疑問にも耳を傾け、患者さんと情報共有を図りながら信頼関係に基づいた患者参画型の医療の提供を目指しています。





9 摂食嚥下センター

食べて飲み込む機能の評価や維持、飲食物が気管に入ってしまうことによる肺炎や窒息の予防などに対してチーム医療を提供します。

超高齢化社会になり、入院患者さんが高齢化したこともあり、 食べて飲み込む(摂食嚥下)障害に対する診療の重要性が増して います。 摂食嚥下センターでは、医師、歯科医師、看護師、言語聴 覚士、歯科衛生士、管理栄養士などの多職種で構成されるチームが、検査、治療、リハビリテーションにあたつています。 入院患 者さんの摂食嚥下障害に関する情報を集め、X線透視や内視鏡 を用いた嚥下機能検査を行い、食事の形態や水分へのとろみの 程度を適正に調整しています。 また、必要に応じてリハビリテーション(嚥下訓練)を行い、転院や退院の際に提携先の病院やクリニック、施設に摂食嚥下に関する患者さんの情報を提供しています。 さらに、摂食嚥下障害に携わる院内のスタッフを教育、養成する役割も担つています。



福岡大学病院TOPIX

GENETIC COUNSELING

10 遺伝医療室

「遺伝」に関する疑問や悩みを解決していけるよう支援します。



近年、遺伝医学の進歩は目覚ましく、今まで原因不明とされてきた様々な疾患の原因遺伝子が同定され、遺伝子と疾患の関連も解明もすすみ、治療可能な遺伝性疾患も増えてきています。福岡大学病院遺伝医療室では、染色体疾患や遺伝性疾患に関する様々な疑問や不安をお持ちの方々に遺伝カウンセリングを行っています。例えば「家族の病気が自分や他の家族に遺伝しないか」、「自分の病気がこどもに伝わるかも知れない」、「こどもに先天性の異常が見つかったがどうしよう」「遺伝子検査や染色体検査を勧められたけれど、どのように考えればいいのかわからない」等をお持ちの方々に、遺伝に関する医学的、心理的、家族的影響に対して正しい情報を分かりやすく提供し、ご本人やご家族に理解していただき、共に考え、より良い方向に

向かえるようお手伝いしてまいります。遺伝カウンセリングの対象疾患は、染色体の変化に伴う疾患、神経変性疾患、小児領域の遺伝性疾患、遺伝性の内分泌・代謝疾患、遺伝性のがん、周産期疾患、NIPT: non-invasive prenatal testing(母体血を用いた非侵襲的出生前遺伝学的検査)、その他遺伝が関係する疾患です。福岡大学病院は日本人類遺伝学会の認定研修施設であり、遺伝学に精通した臨床遺伝専門医を中心に、各診療科の専門医とともに対応いたします。

11 リハビリテーション

運動器・脳血管・心大血管・内部障害の専門チームで 早期社会復帰をめざし総合的な医療を提供しています。



PICKUP

HAL® (Hybrid Assistive Limb®)

ロボットスーツ HAL* (Hybrid Assistive Limb*)は人が「動きたい」と考えたとき、脳から神経を通して必要な信号をその動作に必要な筋肉へ送り出します。その信号をHAL* が読み取り、意図した動作に合わせたアシストを行います。当院では2011年9月に導入し、2019年9月まで下肢タイプ(両脚型・片脚型・膝単関節型)を431症例、上肢タイプ(肘単関節型)を185症例の脳卒中、脳腫瘍、脊椎脊髄疾患術後、全人工膝関節置換術後などの入院患者さん(13歳~95歳)に使用してきました。2016年10月より保険適応となった神経・筋難病の14症例の患者さんに実施して良い結果を得ています。

PICKUP

メディカル フィットネスセンター

福岡大学は医学部とスポーツ科学部を有する特色を生かし「メディカルフィットネスセンター」を設立し、多職種が協働で専門性の高い運動療法を皆様に提供できるように取り組んでいます。生活習慣病をはじめ、心臓疾患、糖尿病をお持ちの患者さんや、肥満、メタボリックシンドロームでお悩みの患者さんにぜひこの施設を有効に活用していただきたいと思います。

PICKUP



福岡・アジアロボティックスリサーチ& HAL® リハビリテーションセンター

当院はロボットスーツを用いて保険医療を行うことができる施設として、九州では一番最初に認可を受けました。また、保険適応外であっても自由診療で積極的に治療を行っています。「自分の脚で歩きたい」。という願いを少しでも叶えられるよう患者さんをサポートしています。

PICKUP

心臓リハビリテーションセンター

心筋梗塞や心不全、心臓手術後などの患者さんはまず心臓・動脈に負担がかからない範囲内でベッドより起き上がることからリハビリが始まります。基本動作能力や歩行能力を再獲得し、少しずつ活動範囲を拡げていきます。その後は有酸素運動を中心に行い、日常生活に適応できるよう体力の増進を図ります。外来では再発を予防し不安をできるだけ解消できるように医師・看護師・理学療法士・薬剤師・管理栄養士・健康運動指導士などの多職種チームで運動指導、栄養指導、薬剤指導など一人ひとりに合わせたプログラムを提供し、患者さんをサポートしています。



12 総合周産期母子医療センター

母体・胎児・新生児に対する高度な医療を提供し、 ハイリスクの母体と新生児を救います。



福岡県で初めて 総合周産期母子医療センター として指定された施設です。

産科部門はMFICU(母体・胎児集中治療病床)6床、産科病 床24床を有し、新生児部門ではNICU(新生児集中治療病床) 15床、GCU病床27床で運営され、最先端の医療機器を備え 診療しています。

産科部門は、早産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、精神疾 患などの合併症妊娠、多胎妊娠はもとより出生後外科的治療 を要する胎児異常などの胎児疾患を中心に高度医療を推進し、 安全・安心の診療を行っています。新生児部門では早産児の体 外での発育管理・治療や新生児の内科的疾患を取り扱ってい ます。また新生児外科疾患に対しては、小児外科、脳神経外科、 眼科、腎泌尿器外科などの外科系各科と密接な連携を取りな がら高度な医療に対応しています。





13 小児医療センター

最新の機器を備え、大学病院でなければできない 先進・高度医療を実践しています。

当センターは、

15歳未満の専用病床を63床もつ小児医療を専門に行う施設です。

成育基本法の理念に則り、妊娠期から成人期まで成長過程にある方々に切れ目なく成育医療を提供しています。一方で、福岡市の急患センターからの二次救急の受け入れなど、地域医療や救急医療にも注力しています。小児の外科疾患も扱っています。全国に先駆けて専任の保育士2名、チャイルドライフスペシャリスト1名がおり、小児看護専門看護師、臨床心理士3名等とともに、よりよいこどもの治療環境を目指しています。その一環が院内学級の「菜の花学級」で、長期入院の小学生と中学生が学んでいます。





14 病理部 💩



「患者さんのための病理診断」を目標に、各分野にわたって高度な 専門性を持つ病理医の連携により、精度の高い病理診断を行います。





病理部は、組織や細胞の肉眼的・ 顕微鏡的観察により、病気を診断する 部門です。

迅速かつ的確な診断を行うため、 医師と技師、病理部と臨床各科との 密接なコミュニケーションを心がけて います。

私たち病理医が患者さんに直接お 目にかかることは基本的にはありま せんが、病理組織診断、術中迅速診 断、細胞診断、そして病理解剖を通し て、最終的な診断の決定に深くかか わつており、臨床医とも十分に連携し、 「チーム医療」の一員として診療に従 事しています。

福岡大学病院

DEPARTMENT OF CLINICAL LABORATORY

15 臨床検査部 🐡



臨床検査部は、患者さんに質の高い医療ができるよう、 臨床検査の品質・精度管理された情報を提供できるよう努めています。

患者の皆様より採取した検体から 血液検査、尿検査、輸血検査、細菌検 査、遺伝子検査を行う「検体検査部 門」と、皆様に直接接して心電図検査、 肺機能検査、脳波検査、超音波検査を 行う「生理機能部門」など多岐にわた る検査を行っている部門です。

当部はコロナ禍で新たにPCR検 査装置を導入するなど、365日24時 間体制で緊急検査体制のもと夜間や 休日も正確で迅速に質の高い検査結 果を報告しています。また、国際規格 ISO15189を2014年から取得し、臨 床検査室の品質と能力を向上させ安 心・安全な医療提供を目指しています。





16 薬剤部 🖤



薬についての専門的知識を活かし、薬物治療を支援します。

薬剤師は、調剤および医薬品の供給や管理、医薬品情報の提供、抗がん薬の無菌調製など多岐にわたって活動しています。 また、がんセンター、全病棟、手術室などに薬剤師を配置し、薬物治療の支援と副作用の早期発見に努めています。



PICKUP

抗がん薬の無菌調製

がん治療で用いる抗がん薬を無菌的に 調製しています。また、がんの専門的知識 を有する薬剤師が患者さん個々の状態に 応じた薬物治療を支援します。

PICKUP

持参薬の確認

入院前、患者さんが服用しているお薬を対象に、 手術・治療への影響や服薬状況を聞き取ります。 また、薬によるアレルギーや副作用歴についても確 認します。



PICKUP

薬学的な管理と指導

患者さんの薬物治療と病態を把握し、ベッドサイド でお薬の説明を行います。入院中は薬の効果や副作 用の発現に注意し、退院後も切れ目のない薬物治療 が継続できるように、かかりつけ薬局と連携します。



17 医学教育

医のプロフェッショナルを目指します。



PICKUP

臨床研修医の教育

本院は地域の基幹病院であり、コモンディジーズ(高頻 度にみられる疾患)から珍しい疾患まで様々な症例を経 験できます。患者さんのファースト・タッチは研修医が行 い、上級医と共に診療にあたる「屋根瓦方式」を採って おり、実践的なプライマリ・ケアの修得ができます。また、 三次救急のほか二次救急として新たに「救急外来(ER) | を設置し対応しています。

多くの診療科、専門医を有し、関連する診療科がセン ターを形成しており連携もスムーズで、症例を総合的に 診療することができます。研修医は様々な選択肢から進 路を考えることができます。

PICKUP

臨床研修プログラムの特色

本院の研修プログラムは、福岡大学病院と福岡大学筑 紫病院を主体に、地域の研修協力病院と病院群を構成 し、効率的な研修を目標にしています。

1年次に必修科目(内科、外科、麻酔科を含めた救急 部門、精神科、小児科、産婦人科)をひと通り経験し、プラ イマリケアを修得した上で、研修医の経験症例や多様な ニーズに応じて2年次は自由に研修科や研修期間を選択 できるよう選択科目の期間を長く(36週間=9カ月)設け ています。また、1年次では筑紫病院で研修できるコース も選択することができます。

このほか、小児科、産婦人科に特化した研修プログラ ムも設置しています。



クリニカルクラークシップ

医学部・薬学部の学生には、診療参加型実習(クリニカルクラークシップ)、つまり、医学部・薬学部と病院を一 体化した連続性のある教育が求められています。一人での知識や勉学では得られない、サイエンスに支えられ たアートの世界が医学教育には必要です。命の大切さを学ぶ精神を基軸に、医療安全・患者満足度の視点等、医 学教育の改革は世界的潮流です。医療を志す学生が基本的臨床能力を習得するための必須プログラムです。



PICKUP

医学部医学科

スチューデント・ドクターの医学生が、患者さんの診療チームの一員として大学病院内で臨床実習を行っています。指導医のもとで患者さんの病歴聴取、身体診察、検査や治療・手術などを実際に経験し、患者さんから学ぶクリニカルクラークシップは医師になるための必須のプログラムです。

PICKUP

医学部看護学科

人間性、柔軟な思考力、科学する態度や協働・連携の能力を養います。社会奉仕・貢献の感覚を醸成させ、学際的能力、国際的視野を教育の方針・目的にしてきました。地域の医療機関での研修も自身の将来像に大きな影響を与えてくれます。



PICKUP

薬学部薬学科

人の健康や生命を尊重するという考えに基づき、 誠意あふれる態度を習得することを目標として長 期実務実習が行われています。当院における実習で は、病院薬剤師の業務と責任を理解し、病院内での チーム医療に参画できるように、薬剤部内業務、病 棟薬剤業務の参加型実習を通して薬剤師業務に関 する基本的知識、技能、態度を学びます。





スチューデント・ドクター

臨床実習前医学系共用試験に合格した学生はスチューデント・ドクターの認定証付き名札を着用して、患者さんの診療に参加することが認められます。



フロア紹介



病院本館

西別館

25

病院新館

銀 行 Α Т

M

2 福岡銀行

福岡銀行ATM

平日・土曜・日曜・祝日 利用時間 9時00分~20時00分

新館1階

9



ゆうちょ銀行ATM

平日 9時00分~17時00分 利用時間 土曜 9時00分~12時30分

日曜・祝日 お取扱いがありません 場所 本館タクシー乗り場横

10



西日本シティ銀行ATM

利用時間 平日・土曜・日曜・祝日

9時00分~20時00分 場所

本館1階 休日·夜間入口横

飲 食 店 美 容 室

売 店

4



スターバックス コーヒー(喫茶)

営業時間 平日 7時30分~20時00分 土曜・日曜・祝日

10時00分~19時00分

場所 新館地下1階 6



クロスワン(レストラン)

営業時間 平日・土曜・日曜・祝日 7時00分~19時30分

テナント棟2階

12



こもれび(美容室)

営業時間 月曜~金曜(祝日も営業)

9時00分~18時00分

場所 テナント棟1階



アットホーム

クッキーやケーキの販売を行っています。 **営業時間** 平日 10時30分~14時00分 新館1階 場所



ローソン(売店)

営業時間 平日・土曜・日曜・祝日 7時00分~24時00分

テナント棟1階 場所

8



医療用品(具)売店

営業時間 平日 10 時 00 分 ~ 16 時 40 分

本館1階 場所

そ ഗ 他



福大メディカルホール

地下鉄七隈線福大前駅の真上にある、300席 の講演会ホールで、講演会や研修会等を開催 しています。

場所 新館1階横 (問い合わせ先:庶務課)

5



福大プラザ

各診療科や講演会の案内の他、福岡市城南区 の「まちかど文化ひろば」として、一般の方の展 示スペースとして開放しています。

場所 新館地下1階 (問い合わせ先:庶務課)

11



患者図書室

患者さんやご家族の方が利用できる図書室です。 利用時間 平日 8時30分~17時30分

本館1階

(問い合わせ先:庶務課)

※新型コロナウイルス感染症の状況によって、営業時間が変更となる場合がありますので、ご注意ください。



新館 B 1



新館 3 F



新館2F







^{本館}2F





その他のさまざまな施設、多彩なイベントも福岡大学病院の魅力です。

福大メディカルホール



地下鉄七隈線福大前駅の真上にある、300席の講演会ホールで、 講演会や研修会等を開催しています。

1 問い合わせ先: 庶務課

ホスピタルガーデン



新館南側から新館東側地階までをつなぐ広場です。 散歩や休憩など様々な用途でご利用ください。

レストラン&ベーカリーショップ (クロスワン)



店内焼き立てベーカリーと人気のパン屋さん「ブリオッシュ」の 販売をしています。お食事ができるレストランも併設しておりま すので是非ご利用ください。

福大プラザ



各診療科や講演会の案内の他、福岡市城南区の「まちかど文化ひろば」として、一般の方の展示スペースとして開放しています。

○ 問い合わせ先: 庶務課

スターバックス コーヒー



一すべてのお客様の一日を幸せに 一 高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベー スのバラエティ豊かなドリンクやペストリー、サンドイッチをお楽 しみいただけます。

ボランティア



院内には、黄色のエプロンを着用したボランティアが多数活動しています。

[主な活動] 院内の案内、入院患者さんを対象とした折り紙やバルーンアートの制作など。

病院概要

病院のあゆみ

昭和48年8月4日 福岡大学病院開設 昭和59年9月30日 西別館完成 昭和60年4月22日 南片江小学校「なのはな学級」開級 昭和62年4月1日 救急部開設 昭和 63 年 3 月 29 日 外国医師·歯科医師臨床修練指定病院承認 平成 2 年 4 月 1 日 新生児特定集中治療室(NICU)施設基準承認 平成 4 年 6 月 1 日 救命救急センター指定 平成 4 年 11 月 1 日 特定集中治療室管理(ICU)施設基準承認 平成 6 年 2 月 1 日 特定機能病院承認 平成 6 年 4 月 1 日 エイズ治療拠点病院指定 平成 8 年 12 月 27 日 災害拠点病院指定 平成10年4月1日 梅林中学校「菜の花学級」 開級 平成10年12月1日 総合周産期母子医療センター指定 平成14年10月1日 外科系集中治療室設置 平成15年1月1日 院内全館禁煙実施 平成15年4月1日 医療安全管理部(医療相談窓口含む)を設置 卒後臨床研修センター設置 臨床工学センター設置 平成16年4月1日 地域医療連携室設置 臨床研修病院(基幹型)指定 平成 16 年 11 月 22 日 (財)日本医療機能評価機構 病院機能評価認定 平成17年2月3日 福岡市営地下鉄七隈線開業 平成17年5月31日 脳死肺移植実施施設認定 平成17年10月28日 新鮮膵島分離移植施設認定 平成19年1月1日 病院敷地内禁煙実施 平成19年4月1日 院内保育所開設 腫瘍センター設置(現 がんセンター) 平成19年7月2日 治験拠点病院指定 平成20年1月31日 福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)指定 平成20年2月8日 地域がん診療連携拠点病院指定 平成21年8月5日 電子カルテシステム稼働 平成22年4月5日 メディカルクラーク導入 平成23年1月4日 福岡大学病院新館開院 平成23年3月12日 福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)派遣(東日本大震災) 平成23年6月1日 テナント棟オープン 平成24年7月21日 福岡都市高速5号線(環状線)開通 平成25年4月1日 二次救急受入れ開始 救急病院認定 平成 26 年 6 月 27 日 福岡市救急病院協会入会 平成26年7月1日 福岡市児童虐待防止医療ネットワーク事業拠点病院指定 平成26年11月1日 福岡市認知症疾患医療センター指定 平成28年4月15日 福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)派遣(熊本地震) 平成28年4月24日 日本医師会災害派遣医療チーム(福岡県JMAT)派遣(熊本地震) 平成29年4月1日 地域医療連携センター業務専用車両運用開始 平成29年7月7日 朝倉豪雨災害被災地へ福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)派遣 平成30年1月4日 ファーストメディカルレスポンスカー(FMRC)運用開始 平成30年1月29日 小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業受託 (福岡県・福岡市・久留米市・北九州市) 平成30年4月1日 ななくまのもり保育園開園 がんゲノム医療連携病院指定 平成30年6月1日 治療と仕事の両立支援相談窓口開設 平成30年7月13日 高齢運転者の交通事故抑止に向けて早良警察署と協力 平成31年3月4日 ふくおかDPAT派遣協定締結 令和 2 年 7 月 5 日 福岡県災害派遣医療チーム(福岡県 DMAT)派遣(令和2年7月豪雨)

認定・指定施設

- ●外国医師·歯科医師臨床修練指定病院●脳死肺移植実施施設
- ●救命救急センター
- ●特定機能病院
- ●エイズ治療拠点病院
- ●災害拠点病院
- ●(公財)日本医療機能評価機構認定病院 ●総合周産期母子医療センター
- ●福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)●福岡市児童虐待防止医療ネットワーク事業拠点病院

令和 2 年10月14日 福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関指定

- ●災害派遣精神医療チーム(ふくおかDPAT)
- ●地域がん診療連携拠点病院
- ●救急病院
- ●臨床研修病院(基幹型)
- ●福岡市認知症疾患医療センター
- ●がんゲノム医療連携病院
- ●福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関

組織図 病 院 長 診療部(診療各科) 副病院長 ● 形成外科 腫瘍・血液・感染症内科 副病院長 ● 脳神経外科 内分泌・糖尿病内科 副病院長 ● 循環器内科 • 心臓血管外科 副病院長 ● 消化器内科 ●皮膚科 ● 呼吸器内科 ● 腎泌尿器外科 事務長 腎臓・膠原病内科 ● 産婦人科 ● 脳神経内科 ● 眼科 • 精神神経科 ● 耳鼻咽喉科 ● 小児科 ● 放射線科 ● 消化器外科 ● 麻酔科 ● 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科● 歯科口腔外科 ● 整形外科 診療部(診療各部) 病理部 ● 栄養部 ● リハビリテーション部 ● 臨床検査部 ● 内視鏡部 ● 血液浄化療法センター 輸血部 ● 医療情報部 ● 放射線部第一 ● 救命救急センター ● 放射線部第二 ● 総合周産期母子医療センター ● 手術部 総合診療部 ● 臓器移植医療センター 診療支援部門 医療情報部事務室 看 護 部 薬剤部 臨床研究支援センター 臨床研究支援センター事務室 卒後臨床研修センター 卒後臨床研修センター事務室 臨床工学センター 地域医療連携センター 地域医療連携センター事務室 医療安全管理部 医療安全・感染管理事務室 感染制御部 がんセンター 再生医療センター 認知症疾患医療センター 入退院支援センター 心臓リハビリテーションセンター 摂食嚥下センター 最先端ロボット手術センター 炎症性腸疾患先進医療センター 遺伝医療室 褥瘡対策室 診療支援組織 庶務課 栄養サポートチーム 緩和ケアチーム、ECMOセンター 経理課 認知症ケアチーム 施設用度課 事務部 事務長(再掲) 医事課

概要

名 称 福岡大学病院

所 在 地 福岡市城南区七隈七丁目45番1号

電話番号 092-801-1011 (代表) F A X 092-862-8200 (代表)

ホームページ https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/

開設年月日 昭和48年8月4日

数字データ(令和4年4月1日現在)

●病床数 915床 (一般855床、精神60床)

●職員数 1,930人

医師 ·······467人 医療技術職員 ···271人 臨床研修医·····54人 事務職員 ·····107人 看護職員 ······957人 その他 ······74人

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
外来患者数	377,466	370,917	365,401	359,898	349,399	306,385	326,096
入院患者数	285,895	253,909	274,319	270,794	266,923	239,189	238,286
平均在院日数*	13.8	12.5	12.8	11.9	12.1	12.5	11.4
手 術 件 数	8,565	8,204	8,490	8,504	8,553	7,524	8,117

※精神神経科を除く一般病棟を対象として算出しています。

患者さんの権利と義務

医療は医療者と患者さんとの信頼関係で成り立っています。福岡 大学病院では、信頼され安心して受診していただける病院を実現す るため、患者さんの基本的な権利を明確にしてこれを職員一同が 確認すると共に、患者さんにも義務を守っていただくことを要望い たします。

● 患者さんの権利

受療権 患者さんには常に人間としての尊厳と、差別のない 安全で最善の医療を受ける権利があります。

選択権 患者さんには病院を自由に選択し、変更する権利 があります。また、患者さんには、自己の費用負担

の下にセカンドオピニオンを求める権利があります。 自己決定権 患者さんは検査や治療について、その目的、もたら

される結果などについて十分説明を受け、納得の上で選択あるいは拒否する権利があります。

知る権利 患者さんは自分自身に関する情報を開示され、自己の健康状態について十分な情報を得る権利があります。

ブライバシー保護権 患者さんは医療上得られた個人情報やプライバシー が守られる権利があります。

● 患者さんの義務

情報提供義務 患者さんは良質な医療の提供を受けるために、ご 自分の健康に関する情報をできる限り正確に医師

や看護師に提供してください。

状況確認義務 患者さんは納得のいく医療の提供を受けるために、 医療に関する説明を受け理解できない場合は理解

できるまで質問して確認してください。

- 診療協力義務 ●全ての患者さんが適切な療養環境で治療に専念できるように、社会的ルールや病院の規則、職員の指示を守ってください。
 - ●他の患者さんや職員に対する暴言・暴力等迷惑 行為はお断りします。
 - 病院内では静粛にし、病院の設備・器物は大切に 扱ってください。
 - 病院敷地内は禁煙・禁酒です。入院中の喫煙・飲酒は禁止します。

医療費支払い義務 適切な医療を維持していただくために、医療費を遅滞なくお支払いいただくことが必要です。

● 義務に違反した場合

前掲の義務に違反する行為等があったときは診療を中止すること があります。

また、暴言・暴力等の行為があったときは警察署に通報します。

患者の皆さんの個人情報について

当院では、取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録を医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思いますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

● 個人情報の利用目的

当院での利用

- ◎患者さんがお受けになる医療サービス
- ◎医療保険事務
- ◎患者さんに関係する管理運営業務 (入退院等の病棟管理、会計・経理、医療事故の報告、医療サービスの向上)
- ◎医療サービスや業務の維持・改善のための基礎資料
- ◎院内がん登録業務および全国がん登録業務(予後調査含)

当院および福岡大学での利用

- ◎医学系教育
- ◎症例に基づく研究や研修 この利用に当たりましては、可能な限り匿名化するよう努力します。

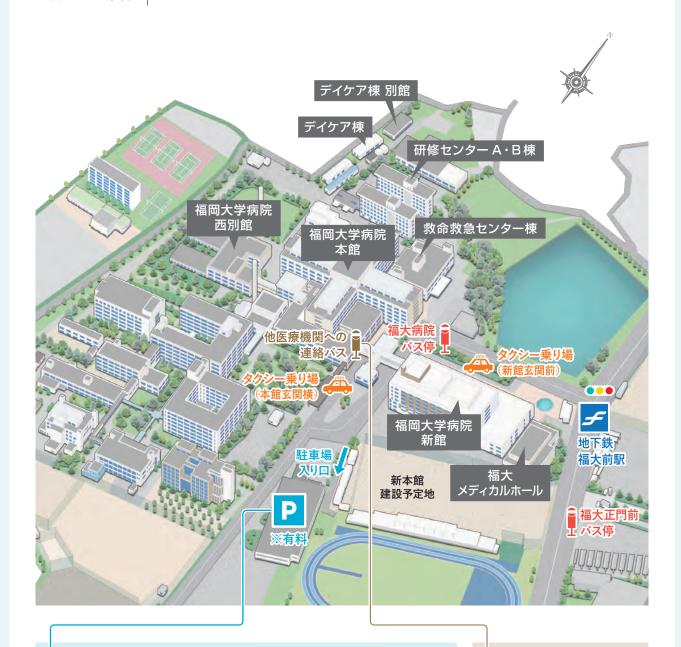
他の事業者等への情報提供

- ◎他の病院、診療所、助産所、薬局、訪問看護ステーション、介護サービス事業者等との医療サービス等に関しての連携
- ◎他の医療機関等からの医療サービス等に関しての照会への回答
- ◎患者さんの診療等にあたり外部の医師等の意見・助言を求める場合
- ◎検体検査業務の委託その他の業務委託
- ◎患者さんの家族への病状説明
- ◎医療保険事務(保険事務の委託、審査支払機関へのレセプトの提出)
- ◎審査支払機関または保険者からの照会への回答
- ◎関係法令等に基づく行政機関および司法機関等への提出等
- ◎関係法令に基づいて事業者等からの委託を受けて健康診断を行った場合における、事業者等へのその結果通知
- ◎医師賠償責任保険等に係る医療に関する専門の団体、保険会社等 への相談又は届出等
- ◎外部監査機関への情報提供
- ◎院内がん登録および全国がん登録(予後調査含)における国立がん研究センター等への情報提供

付記

- 1. 臨床研究においては、患者さんの同意に基づき個人情報を適切に保護いたしております。
- 2. 上記のうち、他の医療機関等への情報提供について同意しがたい 事項がある場合には、その旨を担当窓口までお申し出ください。
- 3. お申し出がないものについては、同意していただけたものとして取り扱わせていただきます。
- 4.これらのお申し出は、後からいつでも撤回、変更等をすることができます。

交通のご案内



● 外来駐車場

自家用車でご来院の際は、外来駐車場をご利用ください。 ただし、入院のためご来院いただく際の駐車場利用はご 遠慮いただいています。公共の交通機関をご利用くださ いますようよろしくお願いします。



駐車場利用料金 駐車から最初の30分は無料、4時間まで200円、以降1時間が経過するごとに100円加算されます。

ただし、外来を受診された患者さんに限り、2時間まで100円、2~24時間まで200円となります。また、障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者福祉手帳のみが対象)をご提示いただくと、外来受診患者に限り、駐車料金を免除いたします。いずれも割引処理は、新館1階防災センターにて①受付票または領収書、②駐車券、③障害者手帳(③はお持ちの方のみ)の2点もしくは3点をご提示いただくと割引処理を行います(※減免対象は当日分のみ)。

●他医療機関への連絡バス

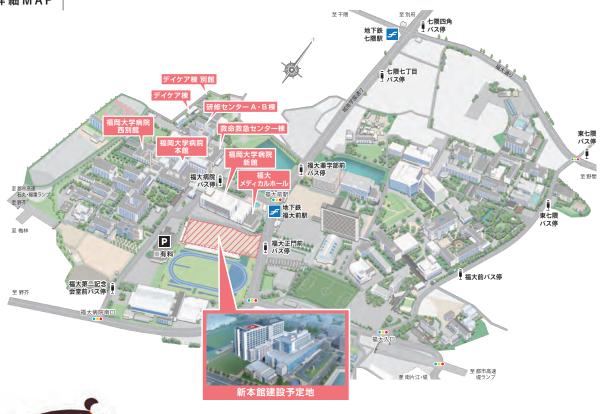
下記の医療機関との連絡便が運行されています。ご利用ください。

- ●白十字病院
- ●西福岡病院※1
- ●福岡リハビリテーション病院
- 夫婦石病院※2
- ●福西会病院
- ※1 西福岡病院のみ本館玄関前には停車しません。新館玄関前からお乗りください。
- ※2 夫婦石病院との連絡便は、新型コロナウイルス感染症拡大時、運休いたします。

広域MAP



詳細MAP





〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目 45 番 1 号

TEL: (092)801-1011(代)

発行:医療情報部

URL: https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/







